

岩手県立久慈高等学校山形校統合形態検討委員会（第1回）議事録

日時 平成19年9月19日（水）15:00～16:30
場所 岩手県立久慈高等学校山形校 視聴覚室
出席者 上原耕太郎委員長（久慈高校校長） 佐藤庄治郎副委員長（久慈高校山形校副校長）
宇部辰喜委員（久慈市教育委員会事務局総務学事課長）
鹿糠敏文委員（久慈中学校長） 新毛助直委員（山形中学校長） 高橋紀子委員（霜畑中学校長）
小平澤由男委員（PTA会長） 蒲野誠委員（同窓会長） 大上精一委員（振興会長）
嵯峨力雄委員（久慈高校学校評議員） 松井端裕子委員（PTA副会長）
小田勝正委員（PTA副会長） 蒲田祥子委員（1学年PTA山形地区代表）
佐々木敏委員（1学年PTA久慈地区代表） 清水川悦子委員（2学年PTA山形地区代表）
松本りつ子委員（2学年PTA久慈地区代表）
県教育委員会事務局 鷹薮文昭学校教育室高校改革担当課長 熊谷正樹高校改革担当主任指導主事
傍聴者 一般0名 報道2名

会議の概要

1 開会 佐藤庄治郎副委員長

- ・本委員会は県の審議会に類する会議として公開している。会議終了後、会議の状況をホームページ上で公開することを了解願いたい。

2 岩手県教育委員会あいさつ 鷹薮文昭学校教育室高校改革担当課長

- ・お忙しい中お集まりいただいたことに感謝申し上げます。
- ・山形校は地域に根ざした教育を行い、歴史と伝統ある学校である。地元の思いを十分にふまえ、また在校生のことを第一に考えて検討いただきたい。

3 委員の委嘱及び紹介 上原耕太郎委員長

- ・委員長より一人ひとり紹介する。

4 協議

(1) 本校との統合形態について

上原委員長

- ・統合形態について事務局からの説明の後、委員の皆様からご意見をいただきたい。

佐藤副委員長

- ・統合形態検討委員会までの経過説明。9月5日藤沢高校訪問。9月7日統合形態にかかる全校生徒への説明、1学年にはアンケート用紙を配付。1・2学年保護者宛説明文書と1学年保護者宛アンケート用紙を郵送。9月10日1・2学年PTAを開催し、統合形態の説明、アンケートの依頼。9月12日1学年生徒アンケートの回収。9月13日1学年保護者アンケートの回収。9月14日アンケート結果を保護者に郵送。
- ・統合形態についての説明を行う。 年次統合 年次統合 完全統合 の3つがある。

- ・統合形態については、生徒の意向が最も尊重されなければならない。また、保護者の意向も尊重されなければならない。
- ・2学年生徒、保護者については、来年度本校との統合（完全統合）という選択肢は採らないとして、説明文書を配付し、理解を求め、了解を得た。理由は、進路指導・学習・部活動などの面で障害が考えられるためである。
- ・1学年生徒・保護者について、アンケートを行い、かを選択してもらった。生徒については、在籍24名のうち、1名が長期欠席のため、23名からアンケートを回収した。結果は、23名全員が年次統合を希望していた。保護者については、23名から回答を頂き、21名が年次統合を希望していた。よって、ほぼ全員が年次統合を希望していることがわかった。
- ・従って、統合形態は年次統合ということで委員の皆様にお諮りしたい。

上原委員長

- ・皆様からご忌憚のないご意見を伺いたい。

嵯峨力雄委員

- ・統合はすでに決定しており、本日の会議では統合形態について話し合うことは理解している。ただ、山形校の募集停止について、地元の人々からの意向を十分に聞いてほしかった。7月の県教委の説明でも要望したつもりであるが、生徒の多寡によって教育を差別しないでいただきたい。なぜ、山形校が募集停止になるのか、再度説明していただきたい。

鷹嘴文昭学校教育室高校改革担当課長

- ・平成17年度に決定したルールに則って進めているところである。山形校の教育については十分に理解しているが、地元からの入学者が少ないということは、残念であるが、統合を考えなければならない。

大上精一委員

- ・川井校での反対運動を新聞報道等を見た。統合は財政などの事情もあるかもしれないが、今まで先輩方が一生懸命頑張ってくれ、旧久慈市からも多くの生徒が通学している。市町村合併もしたのだから、久慈市として考えてくれれば良いと考える。在校生の答えはこれしかないと思う。統合は残念である。

鷹嘴文昭学校教育室高校改革担当課長

- ・平成17年の時点で、市町村合併も考慮した。何度も話し合いをした結果、このルールが出来たので、これを今更崩して考えるのは難しい。ご理解いただきたい。

嵯峨力雄委員

- ・ルールとは、小規模校を廃止するというものなのか。岩手県の教育はこれでいいのか。市町村合併が進む中で、合併のメリットを聞かされてきた。しかし、久慈と山形の垣根は取り払われていない。

熊谷正樹高校改革担当主任指導主事

- ・全国的に、学校は4～8クラスの規模が理想だといわれている。しかしながら、岩手県は広大であり、各地で高校を整備してきた歴史がある。分校は、地元から子どもたちが入ってくれば存続させるとして、後期計画を修正してきた。統合後は、通学の足も考慮したい。

清水川悦子委員

- ・子どもたちがどこの学校に行き、学ぶかは自由である。距離の問題ではない。

熊谷正樹高校改革担当主任指導主事

- ・子どもたちが通いたい高校を選んで入学するのはその通りである。県教育委員会では、中学生の志願動向を参考にして案を出させていただいた。

松井端裕子委員

- ・保護者のアンケートのうち、 年次統合に賛成されなかった2名のご意見を伺いたい。

佐藤副委員長

- ・1名は、1・2学年PTAにも参加しており、学校の説明は十分に理解できるが、子どもの部活動の関係から来年度からの統合を希望していた。もう1名は、 年次統合 に回答しているが、理由は書かれていない。

小田勝正委員

- ・地元の中学校（山形・霜畑中学校）の生徒がそもそも少ない中で、ルールをクリアするのは不可能ではないか。また、久慈方面への通学の足はどうなるのか。

上原委員長

- ・あと一つ質問をお受けして、再度県教育委員会からルールを説明していただき、統合形態の検討にうつりたい。

佐々木敏委員

- ・兄弟で山形校にお世話になっている。久慈からの生徒は決して希望通りではない生徒が多いが、楽しく学校生活を送り、無事に卒業している。大規模校ではうまくいかない子どももいる。

上原委員長

- ・県教育委員会から回答をいただく。

熊谷正樹高校改革担当主任指導主事

- ・基本的には分校は地域の学校であるという考えである。
- ・ルールについて再度説明する。
- ・統合後の通学の足については、現在久慈市と交渉中である。
- ・大規模校でも個別指導を充実させている。
- ・地域の要望により、久慈高校長内校へ来年度から昼間部を設置する。

上原委員長

- ・統合形態の検討にうつりたい。先程の事務局提案についてご意見を伺いたい。

鹿糠敏文委員

- ・来年度の職員の定数はどうなるのか。

鷹嘴文昭学校教育室高校改革担当課長

- ・在校生が安心して学校生活を送れるように、職員の特別加配を考えている。

高橋紀子委員

- ・再来年度は3学年のみ24名となる。少人数になると、部活動はどうなるのか。

佐藤副委員長

- ・1学年男子生徒は、8名中6名が硬式野球部に所属する。高野連に問い合わせたところ、本校から野球部員を借りて試合に出られるようである。女子については、アンケートを取り、部の統廃合を考えたい。

新毛助直委員

- ・山形校はきめ細かい指導を行っており、中学生は山形校の良さを分かって希望して入学している。最後まで進路を含めて指導をお願いしたい。

佐藤副委員長

- ・PTAや同窓会から今まで以上のバックアップをいただいて、生徒たちを育てていきたい。

上原委員長

- ・他に質問や意見はないか。なければ 年次統合で進めるがよいか。

出席者全員

- ・異議なし

(2) その他

大上精一委員

- ・山形校が無くなった場合、山形から久慈へのバスはどうなるのか。

鷹嘴文昭学校教育室高校改革担当課長

- ・通学用のバスを現在久慈市と検討中である。

大上精一委員

- ・JRバスが7路線廃止になると、山形地区のバスはどうなるのか。

宇部辰喜委員

- ・現在検討中である。山形中学校バスも活用できるか検討はするが、時間的に難しい。市民も利用できるように、久慈病院回りも考えているところである。

大上精一委員

- ・中学校のバス利用は時間などから無理ではないか。経済的負担も考えてほしい。

嵯峨力雄委員

- ・久慈方面へのスクールバスは2年以上の継続は考えているのか。

宇部辰喜委員

- ・高校生の通学に限らず、山形地区と久慈地区を結ぶバスを検討している。とりあえず3年は継続したい。

清水川悦子委員

- ・朝の時間は1本でもいいが、帰りは部活動などの面から1時間おきに出すなど考えてほしい。

宇部辰喜委員

- ・バスは2台を検討しており、時間差で出せるか調整中である。

5 その他

小平澤由男委員

- ・今日の決定は、県議会後に効力が出るのか。
- ・このような会議では、県教育委員会の考えが分かるような資料を出してほしい。
- ・今後、山形校に入ろうとしている子どもたちがどこを選べばいいのか不安だと思う。また、様々な問題を抱えている子どもたちの受け入れ先も考えてほしい。

鷹嘴文昭学校教育室高校改革担当課長

- ・本会の決定は、県教育委員会定例会で決定する。
- ・資料については、今後親切な形で対応したい。
- ・多様な子どもたちに対応するため、長内校の昼間部を立ち上げ、育てる環境を作っていくたい。

6 閉会 事務局 佐藤庄治郎副委員長

- ・統合形態検討委員会は、統合形態が決定したため、今回で終わりとなる。ご審議いただきまして感謝申し上げます。